

Doc. No.: NR080121

2008年1月21日

ソフトウェア開発プロセスの国際指標「CMMI」の認定レベル3を達成

大日本スクリーン製造株式会社(本社：京都市上京区)のソフトウェア・テナインカンパニー(社長：笠松 敏雄)はこのほど、主にソフトウェアの開発能力を評価・判定する国際指標「CMMI[®] V1.2」^{※1}の「レベル3」の認定を達成しました。

ソフトウェアをはじめとする開発における組織全体の実力を客観的に評価し、その能力や成熟度を企業の活動目的に合わせて「レベル1」から「レベル5」までの5種の分類で認定する「CMMI」は、事実上の国際標準指標として近年、米国をはじめ世界各国で普及が進んでいます。CMMIに基づく認定は、開発企業にとってはソフトウェアなどの開発能力の客観的評価により市場競争力を得るため、顧客企業にとってはソフトウェアや情報システムなどの調達先の技術力を評価・選定する際の重要な基準として、双方から大きな注目を集めています。また、開発プロジェクト推進上のリスク低減や製品品質の改善などの効果も期待されています。

当社グループのソフトウェア開発を担うソフトウェア・テナインカンパニーは、以前から半導体製造装置をはじめとする自社製品の品質改善活動に取り組んできました。こうした開発プロセスの改善を形付ける施策として、2007年4月に、CMMIの「レベル3」(定義された開発プロセスを組織的に実施できている状態)に基づくプロセス改善に着手。改善項目の抽出・分析と改善計画の策定を推進し、組織内の開発管理システムの整備と体系的なプロセス重視の改善活動の結果として、このほど「SCAMPISM」^{※2}による初めての認定において、その達成が認められました。レベル3は「定義された段階」といわれ、組織全体として統一された標準プロセスや手順に従ってソフトウェアを開発しているかなど、開発企業にとって必要不可欠とされる状態に達していることを証明するもので、今回、当社の高度な製品開発能力や組織的体制が実証されたこととなります。

当社は今回のCMMI・レベル3の達成を、開発プロセスのさらなる改善のスタート点ととらえ、ソフトウェアのQCD(Quality：品質、Cost：原価、Delivery：納期)の継続的な向上に一層努めるとともに、より高い品質と信頼性を持つソフトウェアを提供し続け、あらゆる分野の産業の発展に貢献していきます。

※1 CMMI V1.2 (Capability Maturity Model Integration V1.2)

米国・カーネギーメロン大学のソフトウェアエンジニアリング研究所(SEI)が国防総省の要請・支援により開発した、ソフトウェア開発におけるプロセスの成熟度の改善モデル(CMM)に、システムエンジニアリングや調達のモデルを統合・発展させたもの。企業の活動目的に応じた5種類のレベルパターンが定義されている。最新バージョンのV1.2は、2006年8月にリリースされた。

※2 SCAMPI (Standard CMMI Appraisal Method for Process Improvement)

CMMIのモデルを使用して組織のプロセスの状況を診断する公式な評価手法で、SEIが開発。SEIの認定を受けたアプレイザーによって行われ、客観的でばらつきのない結果を得るため、評価の方法やレベル判定の基準などが明確に定められている。CMMI V1.2のSCAMPIは、前バージョンのV1.1と比較して定義が厳密になり、結果の信ぴょう性がより向上するように変更された。さらに、評価におけるサンプリング人数50%以上という指針も追加されている。

* CMMIは、米国・カーネギーメロン大学の登録商標です。SCAMPIは、同大学のサービスマークです。

●本件についてのお問い合わせ先

大日本スクリーン製造株式会社 本社広報室：Tel 075-414-7131 Fax 075-431-6500 〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目



CMMI・レベル3の達成証

☆ この画像の印刷用データ (解像度300dpi) は、下記URLよりダウンロードできます。
(www.screen.co.jp/press/nr-photo/)